

SCHEDULE

東京都写真美術館展覧会スケジュール

2005	3F展示室	2F展示室	B1F映像展示室	1Fホール
7	開館10周年特別企画展 第2部～創造～ ～7月18日(月・祝)	世界報道写真展2005 ～7月31日(日)	開館10周年特別企画映像展 超(メタ)ヴィジュアル～ 映像・知覚の未来学 ～7月10日(日)	チャレンジ・キッズ ～7月1日(金)
8	開館10周年特別企画展 「写真はものの見方を どのように変えてきたか」 第3部～再生～ 7月23日(土)～9月11日(日)		世界文化遺産写真展 「アンコールと生きる」 ～クメール文明の今 写真家:BAKU斉藤 7月16日(土)～8月14日(日)	夏休み特別企画 ・あした元気にな～れ! ・F4 フィルム・コレクション2005 7月2日(土)～8月25日(木)
9		ブラッサイ ーポンビドゥーセンター・ コレクション展ー 8月6日(土)～9月25日(日)	日本写真文化協会展 「The Pride of Japan」 8月20日(土)～9月4日(日)	東京アニメアワード 8月26日(金)～8月28日(日)
10	開館10周年特別企画展 「写真はものの見方を どのように変えてきたか」 第4部～混沌～ 9月17日(土)～11月6日(日)	東京都写真美術館 開館10周年 コンテンポラリー ダンスは快感(仮称) 10月1日(土)～ 11月13日(日)	日本写真作家協会展 9月10日(土)～9月25日(日)	チェコ映画祭 8月30日(火)～9月9日(金)
11	キャン写真新世紀展2005 11月12日(土)～ 12月11日(日)		ローザと アンヌ・テレサ・ドゥ・ ケースマイケルの25年 10月1日(土)～ 10月30日(日)	about love 9/17(土)～
12	開館10周年特別企画 植田正治写真展(仮称) 12月17日(土)～2月5日(日)	岡本太郎展(仮称) 12月24日(土)～2月18日(土)	浪華写真倶楽部「浪展」 11月19日(土)～12月11日(日)	※このほかについての 詳しい情報は ホームページをご覧ください。
			日本写真家協会展 「日本の子ども60年ー 21,900日のドラマー」 12月17日(土)～1月9日(月・祝)	※スケジュール・展覧会タイト ルは予告なく変更される場合 があります。 最新のスケジュール詳細は ホームページをご覧ください。

ご利用案内

- 休館日：毎週月曜日(休館日が祝日または振替休日の場合、その翌日。ただし7/25、8/1は開館)、年末年始
- 開館時間：10:00～18:00(木・金は20:00まで)入館は閉館の30分前まで

割引チケットの 販売

お得な割引料金で2会場以上を自由に組み合わせてご覧いただける割引チケットを販売しております。
詳しくはチケット売り場でおたずねください。



東京都写真美術館

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
Tel.03-3280-0099/Fax.03-3280-0033
<http://www.syabi.com>

JR恵比寿駅東口より徒歩約7分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場を御利用ください。

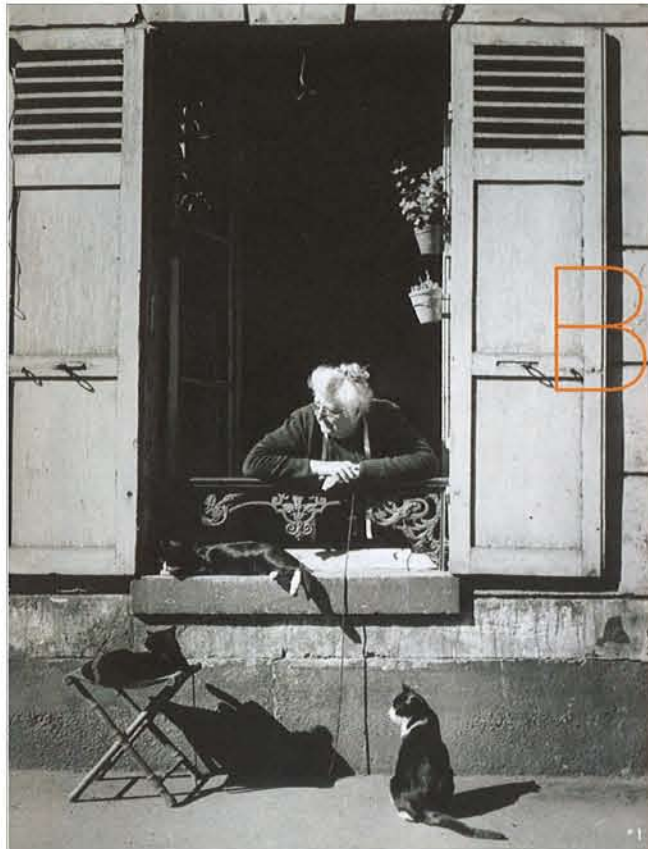
※本誌編集ページに掲載されている観覧料および商品の価格は、原則的に消費税込みの価格です。
東京都写真美術館ニュース「アイズ05」47号●発行日:2005年7月15日/企画・編集:東京都写真美術館事業企画課 普及係●印刷・製本:
JTB印刷株式会社●発行:財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館©2005●本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。



TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY NEWS MAGAZINE

eyes 2005 Vol.47
東京都写真美術館ニュース「アイズ」

47



Brassai

ブラッサイことジュラ・ハラスは、1899年に現ルーマニア領トランシルヴァニア地方のブラッショーに生まれました。後にその名が転じてブラッサイと名乗るようになりましたが、その名には「ブラッショーの人」という意味が込められています。

TOPICS
eyes Vol.47

Brassai ブラッサイ ——ポンピドゥーセンター・コレクション展

ブラッサイは若かりし頃、画家を志してハンガリーとドイツで美術を学んでいました。その後、語学が堪能だったため、1924年にジャーナリストとしてパリに渡り、しばらくの間、ハンガリーとドイツの特派員記者として記事を書きながら生計をたてていました。アンドレ・ケルテスの手ほどきで写真を撮り始めたのがちょうどこの頃のことです。しかし、異邦人であるブラッサイにとって、いきなりパリの表舞台で活躍することは容易なことではありません。先人にはアジェを筆頭とする何人もの写真家その名を轟かせていたのです。そんな彼を受け入れてくれたのが夜のバリでした。時はヨーロッパでカフェ文化が流行していた時代。カフェは物書きやアーティストなど文化人らが集う場所でもありました。ブラッサイも毎晩のようにカフェに通っては、



*2

②

そこで芸術論に花を咲かせ、顔なじみとなった人々の写真を撮影させてもらうようになりました。

そこで出会う人々は、いわゆる裏社会に生きるアングラ世界の人々でした。人目を気にせず接吻をする「カフェの恋人たち」や看板娼婦としていつも決まった席に座っていたという「宝石の女」…。ブラッサイは、そんな猥雑でありながらも人情味あふれる1930年代初頭のパリの人間模様を描き出し、1932年に発表した写真集「夜のバリ」で一躍、脚光を浴びるようになります。

この作品で彼を気に入り、大抜擢したのがピカソです。ピカソは当時のシュールレアリストたちが発表の場としていた「ミノール」という雑誌をブラッサイに紹介し、彼にメジャーデビューのチャンスを与えました。この当時のブラッサイの作品は、丸めた切符や水晶などを芸術的に撮ったものです。

その後、ブラッサイは、アメリカの「ハーバース・バザー」誌の依頼を受けて、表舞台である昼のバリや旅行などグラビアを飾る写真も撮るようになりました。

しかし、その一方で30年間ひたすらこだわり、通い続けていたのが後年に発表された「落書き」に見せる街の落書きです。

匿名性がありながらも、集合体となったときにひとつのテーマが成り立つ落書きの面白さ。ブラッサイは、そこに愛や死のイメージを感じ取り、その壁自体の風感を撮り続けていったのです。そんな彼にとって、「夜のバリ」で始まった写真家としての歴史は「落書き」をもって集大成を飾っていたのかもしれない。

表舞台で活躍しつつもアングラ的な街の観察者であり続けたブラッサイ。もしかすると、そこに彼の異邦人と



*3

*4



*5

しての「眼」というものが深く関係していたのでしょうか。本展では代表作「夜のバリ」「落書き」をはじめ、実験的な「ミノール」誌での仕事や、ハーバース・バザー誌で発表された「昼のバリ」など193点の写真作品に加え、ベルリン時代とパリ時代の貴重な素描8点、彫塑作品33点の未発表作品を含む全234点を展示。20世紀の巨匠、ブラッサイの全貌に迫ります。

表紙 「カフェの恋人たち、イタリー広場」1932年頃
Couple d'amoureux dans un petit café parisien, Place d'Italie, v. 1932 g.s.p.

*1 「管理人」1946年

Concierge, 1946 g.s.p.

*2 「落書き」1935-1950年

Graffiti, v. 1935 - 1950 g.s.p.

*3 「腰掛ける女」1933年

Femme assise, 1933 Ink drawing on paper

*4 「お守りII」1971年

Amuleto II, 1971 white and pink marble

*5 「自写像」1930-1932年頃

Autoportrait, v. 1930 - 1932 g.s.p.

※図版全て© ESTATE BRASSAI-R.M.N.

※図版全て国立ジュルジュ・ポンピドゥー芸術文化センター、国立現代美術館/産業創造センター蔵

※表紙、*3のみ国立現代美術財団より国立現代美術館帰属

2F

2階展示室
Exhibition Gallery> 友の会
割引> 三越カード
割引> アトレカード
割引

2005年8月6日(土) → 9月25日(日)

Brassaï' ブラッサイ
—ポンビドゥーセンター・コレクション展—○一般 1,000 (800) 円 ○学生 900 (720) 円
○中高生・65歳以上 800 (640) 円()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者2名は無料
※第3水曜日は65歳以上無料○主催：東京都写真美術館／朝日新聞社
○後援：フランス大使館
○協賛：エールフランス航空 AIR FRANCE
○協力：ポンビドゥーセンター／岩波書店／PPS通信社
Centre
Pompidou

HP 詳細ホームページ：http://www.syabi.com/schedule/schedule.html

今回の「ブラッサイーポンビドゥーセンター・コレクション」展に先駆け、当館の学芸員が「国立ジョルジュ・ポンビドゥー芸術文化センター」（通称・ポンビドゥーセンター）を訪れました。20世紀建築を象徴するモニュメントでパリ観光の名所としてのみならず国際的な近代・現代美術の秀逸なコレクションで知られている同センターは、1977年の開館以来、世界のすぐれた美術展の開催をはじめ、ホール、映写室などジャンルを超えた現代芸術の振興を目的とする美術館としても知られています。

初夏の陽光のもと、本展でコミッショナーをつとめるアラン・サヤグ氏が爽やかな笑顔で迎えてくださいました。サヤグ氏は1972年以降、写真部長としてマン・レイ展など多くのコレクションを手がけてきた方です。2000年に開催された「ブラッサイ」展は、それまで作品を管理していたブラッサイ夫人から全作品を寄贈されたことで実現した貴重な個展でした。本展はサヤグ氏の協力を得た、日本唯一の巡回展となります。

ルーマニアに生まれ、ハンガリーとドイツを経てパリに渡りついた異邦人・ブラッサイの幅広い創作活動の全貌と、情感溢れる作品の数々…。この機会に是非、ブラッサイの世界をご堪能ください。



国立ジョルジュ・ポンビドゥー芸術文化センター

アラン・サヤグ氏
(本展コミッショナー)

Cafe+Gallery Talk カフェ+ギャラリートーク ブラッサイとパリ(事前申込制)

アラン・サヤグ氏来日! アラン・サヤグ氏(ポンビドゥーセンター・本展コミッショナー)と今橋映子氏(東京大学大学院・助教授)によるカフェ+ギャラリートークを開催。

- 日程：8月6日(土) 16:30~19:00 ■定員：25名
- 講師：アラン・サヤグ氏、今橋映子氏 ※同時通訳付き
- 参加費：2,000円(カフェ代・展覧会入場料込み)
- 会場：当館2階 カフェ・シャンブルクレール/展示室

申込方法/電子メールもしくはFAXで講座名、希望日、氏名、住所、電話番号、FAX番号、メールアドレス、年齢をご記入の上、下記の申込先までお送りください。申込みは定員になり次第、締め切りとなります。

申込先/東京都写真美術館ワークショップ
(メールアドレス) workshop@syabi.com (FAX) 03-3280-0033



東京都写真美術館開館10周年

コンテンポラリー
ダンスは快感(仮称)

Japanese Contemporary Dance

東京都写真美術館開館10周年

コンテンポラリーダンスは快感(仮称)

<会期> 2005年10月1日(土)~11月13日(日)

HP 詳細ホームページ：http://www.syabi.com

- 主催：財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／朝日新聞社／ダンス展実行委員会
- 協賛：凸版印刷
- 後援：立教大学／日本ダンスフォーラム
- 助成：芸術文化振興基金

現在、柔軟な発想と自由な表現でダンス、美術、サブカルチャー等、表現のジャンルをこえて席卷しているコンテンポラリーダンス。それらの作品はカンパニーやダンサーごとにまさに百花繚乱。これまでの舞踊のように共通の形やスタイルは持っていません。表現者そのものの存在がたち現れる身体のドキュメンタリーともいえるでしょう。

本企画では、「考える」というよりむしろ「感じる」ことを目的とし、今を生きる身体そのものをメディアとする表現・コンテンポラリーダンスの魅力に迫ります。

身体感覚を呼び覚ましてくれるのは、現在、国内外で注目されているコンテンポラリーダンスのカンパニーやダンサーたち。来館者の身体感覚へと働きかけるインスタレーション展示、パフォーマンス、ワークショップ、フォーラム等、多彩なプログラムが展示室やロビー、階段などいたるところで楽しめます。

館内に足を踏み入ると、いつの間にか私たちも日常的な身体とダンスの間に起こる心地よい快感を覚えることでしょ。



1. 珍しいキノコ舞踏団「FLOWER PICKING」より
2004年、東京 ©Yohta Kataoka
2. 白井剛「質量 slide.&」より
2004年 ©Toshihiro Shimizu
3. コンドルズ「JUPITER」より
2005年 ©HARU
4. ほうほう堂「るざざ」より
2004年 ©Yoichi Tsukada



コンドルズ「JUPITER」より 2005年 ©HARU



珍しいキノコ舞踊団「FLOWER PICKING」より
2004年、東京 ©Yohta Kataoka



ニブロール「ドライフラワー」ビデオインスタレーション
2004年 ©Nobutaka Sato

○一般 800(640)円 ○学生 700(560)円 ○中高生・65歳以上 600(360)円
()は20名以上の団体および東京写真美術館友の会料金
※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料 ※10月1日都民の日は無料

友の会
割引

<会期> 2005年10月1日(土)~11月13日(日) <会場> 東京都写真美術館 2階展示室

→ インスタレーション(A) | コンドルズ | 珍しいキノコ舞踊団 | ニブロール
近藤良平 | 伊藤千枝 | 矢内原美邦

展示室を表現の場所として発表するインスタレーション。
国内外で活躍する3カンパニーが、身体とダンスをテーマに視覚、聴覚、触覚など、
さまざまな身体感覚を刺激するインスタレーションを個性豊かに展開いたします。
全て今回の展覧会のために制作された新作です。
舞台作品とはひと味違った時間と空間演出を、ぜひご体験ください。

→ 映像作品(B) ダムタイプ《S/N》1994

(S/N)の映像、テキスト等を再編集して上映します。
故古橋二の強烈な個性、パフォーマー達の多彩な動き、時と共に流れ飛ぶ
映像と言葉、刻まれるテキスト等、あまりにも多層な構造ゆえ、
今も強烈な「記憶」である(S/N)を現時点で見つめ直します。



ダムタイプ「S/N」より
1994年 ©Yoko Takatani

→ ワークショップ

- 身体と衣装について
ニブロール
10月7日(金)・8日(土)
- その他、
ダンスワークショップ、
トークプログラムなど
続々計画中!

公演・イベント
開催スケジュール

※C-4の会場は未定です。
詳細は決定次第
ホームページで
ご紹介していきます。

2F展示室	2Fロビー前	1F	地下1階
10/1 11/13 (A) (B)	10/1 (C-1)	10/30 (E-1)	10/1 10/30 (F)
	11/5 (C-3)	11月予定 (G)	11/3・4 (D-1)
		11/6 (E-2)	11/5・6 閉館後 (C-2)
			11/12-13 (D-2)

※日程・料金など詳しい情報は決まり次第ホームページにてお知らせします。

東京都写真美術館開館10周年
コンテンポラリーダンスは快感(仮称) 関連各公演・イベント

※会期中はさまざまな公演やイベントが
美術館の中で開催されます。どうぞお楽しみに!

→ イベント(C)

一部
有料

- ダンスイベント
(C-1)コンドルズ ダンスイベント。近藤良平ほか(10月1日)
(C-2)珍しいキノコ舞踊団(舞踏会)(11月5・6日閉館後)
- ファッションショー
(C-3)ニブロール(会場:2階ロビー / 11月5日午後)
- パフォーマンス(会場:館内各所)
(C-4)ほうほう堂(10月10日)、森上真樹(開催日未定)
ほか 展示室、ロビー、カフェ、屋上などで
多彩なパフォーマンスを実施します。

ニブロール
「ドライフラワー」より
2004年
©Nobutaka Sato



森上真樹

→ 公演(D)

有料
CHARGE

- <会場> 東京都写真美術館 地下1階展示室
<料金> 3,500円(予定価格)
- 展示物のない、地下展示室での
演出が見どころ。
(定員100名程度)
- 黒沢美香(D-1)
「ロマンチックナイト写美」
11月3日(祝)・4日(金)
- 白井剛(D-2)
演目未定
11月12日(土)・13日(日)

白井剛「質量,slide,&.」より
2004年 ©Toshihiro Shimizu



黒沢美香
「Jazzzzz-dance」より
©Yoichi Tsukada



→ フォーラム(E)

有料
CHARGE

- ダムタイプ(E-1)
作品の背景などについてのレクチャーとディスカッション。
作品の内容をより深く考察します。
「いま(S/N)について考える」(仮称)
10月30日(日) 1階ホール
- 日本ダンスフォーラム(E-2)
ダンサー、評論家などのさまざまな視点から、コンテンポラリーダンスの現状と可能性について考察します。
「超ダンス」11月6日(日) 1階ホール 料金:1,000円
お問合せ:日本ダンスフォーラム(アタマテ内)
電話:03-5453-2911

→ 展覧会(F)

有料
CHARGE

- ROSAS XXV 1980-2005
ダンス、空間、そして音楽の軌跡
ローザスとアンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケルの25年
- <会期> 2005年10月1日(土)~10月30日(日)
<会場> 東京都写真美術館 地下1階展示室
<料金> 一般:1,000(800)円
学生:800(600)円
中高生:600(500)円
()は20名以上の団体料金
※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料
※第3水曜日は65歳以上無料
- 主催:カンパセーション
共催:東京都写真美術館/ダンス展実行委員会
後援:ベルギー大使館
協力:ナディフ/ユーロスペース/財団法人埼玉芸術文化振興財団
企画:Rosas/conversation

コンテンポラリー・ダンスを世界的にリードしてきた振付家アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル率いるカンパニー「ローザス」。2002年に、ブリュッセルで開催された展覧会の作品を中心にインスタレーションや貴重な資料を一挙に展示します。



©Tina Ruisinger



©Rosas & Thierry De Mey
from the film "Fase", choreography
Anne Teresa De Keersmaeker

→ 特別上映(G)

無料
FREE
展覧会の
半券で入場可

コンテンポラリーダンス界の
最高峰より贈る、超目玉企画進行中。
発表はホームページにて。

<会期> 2005年11月予定
<会場> 東京都写真美術館 1階ホール

※やむを得ず予定を変更することがございます。ご了承ください。



*1

開館10周年記念特別企画 東京都写真美術館コレクション展
決定版! 写真の歴史展「写真はものの見方をどのように変えてきたか」

第3部「再生」RECONSTRUCTION 12人の写真家たちと戦争

3階展示室 >> 2005年7月23日(土) → 9月11日(日)

HP 詳細ホームページ <http://www.syabi.com/schedule/schedule.html>

1930年代に入って出現したフォトジャーナリズムは、写真がその媒体の長所を生かすことができる新たなジャンルとして、多くの写真家たちが夢と希望を抱きました。しかし1937年に日中戦争が勃発し、日本中のすべてが大きな戦争へと巻き込まれていく中、フォトジャーナリズムも国策プロパガンダのための道具として利用されていきます。これは写真家たちが期待し、望んでいたフォトジャーナリズムとは違っていました。自分たちが苦心して撮ったものが、時には切り刻まれ、偽装するために別の写真に作り替えられるなど、写真家たちにとって屈辱に堪えなければならない苛酷な状況だったからです。

今回ご紹介する12人の写真家たちは、戦争という受難と向き合い、時に苦悩し、自分自身の表現方法を模索していきました。ある者は、不本意な気持ちを押し殺しながらも無言の抵抗をし、写真を撮ることができる唯一の場所に身をおき、ある者は中央の喧噪から遠ざかり、時が過ぎるのをじっと待ちました。また、ある者は戦争という衝撃的な体験を自分の表現の原動力として昇華し、写真家となる決意をしてみたのです。例えば小石清は、1938年に従軍カメラマンとして中国に渡り、



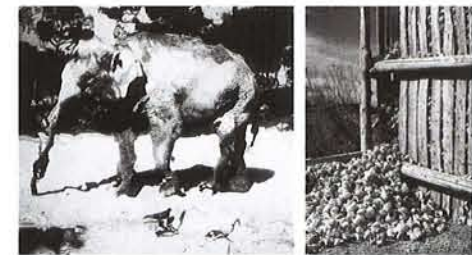
*2

日本軍のために報道写真を撮影しました。そして帰国後の1940年に、「半世界」と名づけた作品を発表。平和の象徴である「象と鳩」をディストーション技法によって歪めたものや、「抜殻の挙動」として、中身のない大量の貝殻の流動している様が軍事下の国民を象徴しているように見える作品など、反戦思想を感じさせる作品を世に送り出しています。これらの作品から、従軍カメラマンとして戦地でレンズを覗いた小石の心情を察することができるのではないのでしょうか。小石は、もともとは大阪を拠点とする「浪花写真倶楽部」という前衛写真を志すアマチュア写真家集団の代表的メンバーでした。アマチュア写真家は、戦況が悪化するにつれ、表現活動は制限され、最終的にはフィルムなどの写真材料が入手困難となり停止状態となります。戦時下で、趣味の写真を撮るのとはもっての他という社会の風潮も起こり、国策に協力するための写真でなければ存在価値は無に等しかったのです。そのような状況のなかで、小石は残された唯一の写真表現の場として、フォトジャーナリズムを選ばざるを得なかったのかもしれない。

第3部「再生」では、小石をはじめ12人の写真家たちが「戦争」という苦難とどう向き合い、写真家としての道を模索していったかを検証します。そして、彼らの生き様を通して、1930年代から60年代の写真表現を探ろうとするものです。



*3



*4

*5

<出品作家>

小石清・河野徹・木村伊兵衛・林忠彦・
植田正治・濱谷浩・桑原甲子雄・熊谷元一・
中村立行・大東元・福島菊次郎・東松照明

○一般 500(400)円 ○学生 400(320)円
○中高生・65歳以上 250(200)円

()は20名以上の団体料金
※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料
※第3水曜日は65歳以上無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料

○主催：東京都/東京都写真美術館
○協賛：フォト・ギャラリー・インターナショナル
○開館10周年特別協賛：キヤノン株式会社/サッポロホールディングス株式会社/株式会社資生堂/株式会社写真弘社/ソニー株式会社/大日本印刷株式会社/凸版印刷株式会社/株式会社日本発色/富士フイルムイメージング株式会社/株式会社リコー(50音順)

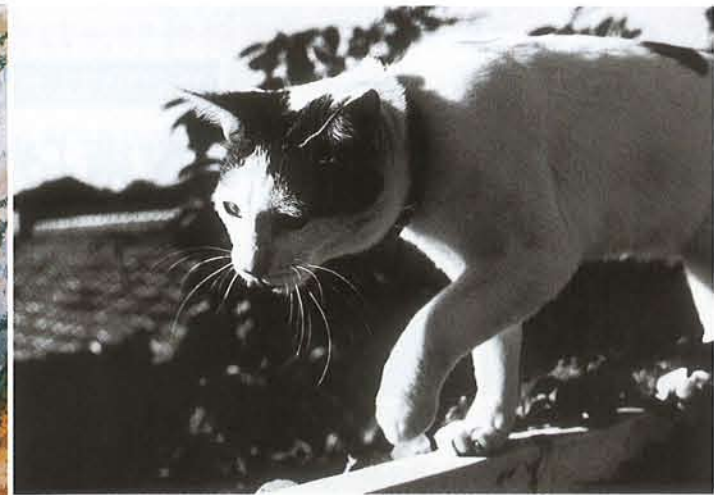
*1 大東元「終戦の詔勅放送に泣く女子挺身隊員」1945年
*2 中村立行「ヌード」1954年
*3 熊谷元一「小学1年生」より「むし下しにがそう」1953~54年
*4 小石清「半世紀」より「象と鳩」1940年
*5 小石清「半世紀」より「抜殻の挙動」1940年
※作品はすべて東京都写真美術館蔵



*1



*2



*3



*4



*5



*6

開館10周年記念特別企画 東京都写真美術館コレクション展
決定版!写真の歴史展「写真はものの見方をどのように変えてきたか」

第4部「混沌」CHAOS 現代そして未来へ

3階展示室 >> 2005年9月17日④ → 11月6日⑤

HP 詳細ホームページ <http://www.syabi.com/schedule/schedule.html>

現代の写真語る上で重要なことは、表現手段や創作方法がいかにかに拡大され、進化しようとも、それでもやはり写真は「社会を映す鏡」であり続ける、ということでしょう。しかし、ここでいわれる「社会」とは、単にわれわれを取り巻く外側の社会を指すのではなく、むしろ、われわれが内に抱える個人的な問題を問い直す「場」としての様相を呈してきました。1977年、ニューヨーク近代美術館で開催された写真展「鏡と窓」は、そのことを考える上で象徴的なものといえるでしょう。外部世界の現実の記録をとらえた窓派と、写真家自身に内在する視覚表現をあらわす鏡派というふたつの観点の表示は、その後の写真評論において大きな問題提起を投げかけるとともに、一方で写真家とともにアーティストを交えたセレクションも話題となりました。80年代に入ると、アメリカ経済の状況にともない、写真の市場が大きくクローズアップされてきます。「ヤッピー」と呼ばれる新たな富裕層の台頭は、彼らの感性に答えるアーティストたちを積極的にサポートし、やがてその波はバブル

期の日本へ、そして世界へと広がっていきました。現代の写真文化を取り巻くさまざまな社会環境は、なかば必然的に写真家たちの生き方やわれわれの写真の見方を変えていきました。こうした写真の形態の「多様性」は、同時に「混沌」に満ちた写真の現状をも生み出したのです。開館10周年特別企画展の終章を飾る第4部「混沌」では、1970年以降から現代までの写真表現を通して、時代背景とともに変化してきた作家像と、美術館と写真の新たな関係性について考えていきます。

＜図版でご紹介した以外の予定出品作家＞

ルイス・ボルツ、ゲリー・ウィングランド、ダニー・ライアン、ルーカス・サマラス、柴田敏雄、オノデラユキ、チャック・クロース、ジョエル・マイヤウィッツ、佐藤時啓、杉浦邦恵など

○一般 500(400)円 ○学生 400(320)円
○中高生・65歳以上 250(200)円

()は20名以上の団体料金
※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料
※第3水曜日は65歳以上無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料
※10月1日都民の日は無料

○主催：東京都/東京都写真美術館
○協賛：フォト・ギャラリー・インターナショナル
○開館10周年特別協賛：キヤノン株式会社/サッポロホールディングス株式会社/株式会社資生堂/株式会社写真弘社/ソニー株式会社/大日本印刷株式会社/凸版印刷株式会社/株式会社日本発色/富士フィルムイメージング株式会社/株式会社リコー(50音順)

- *1 森山 大道「猪豚」1975年
 - *2 シンディ・シャーマン「アンタイトルド」1983年
 - *3 荒木 経惟「写真論」より 1988-1989年
 - *4 ロバート・メイブルソープ「銃を持ったセルフポートレート」1983年
 - *5 ナン・ゴールデン「性的依存のバラード」より「ナン、殴られて」1984年
 - *6 森村 泰昌「ユー・デイトI」より「マザー」1991年
- ※作品はすべて東京都写真美術館蔵

2F

2階展示室
Exhibition Gallery

友の会
割引

三越カード
割引

アトレカード
割引

2005年11月19日(土) → 12月18日(日)

横須賀功光の写真魔術「光と鬼」

○一般 800(640)円 ○学生 700(560)円
○中高生・65歳以上 600(480)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料
※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：横須賀功光の写真魔術「光と鬼」実行委員会
○共催：東京都写真美術館/朝日新聞社
○後援：ニコン/ニコンカメラ販売/SHISEIDO/
富士フイルムイメージング/日本大学芸術学部校友会/
(株)パラゴン ほか

HP 詳細ホームページ: <http://www.syabi.com/schedule/schedule.html>

東京都写真美術館では2003年1月14日に65歳の若さで急逝した横須賀の写真を開催いたします。広告写真の窮児として、数々の優れた広告作品を残した横須賀功光は日本大学写真学科在学中から、資生堂の社内報「ハウスオーガン」の仕事に就き、現代的、かつ斬新な広告表現で注目を浴びました。1960年卒業と同時にフリーランスとして活動を始め、その後、40年余りにわたって広告写真界のリーダー的存在として活躍し、海外でも高く評価されました。また、広告写真家とは別に写真作家としても意欲的に活動を行い、60年代には「モード・イン」「黒」「射」「垂」「壁」を、80年代には「小夜子」「月」「光銀事件」を、続いて90年代には「エロスの部屋」「時間の庭」「光学異性体」を発表しています。今回の横須賀功光の写真魔術「光と鬼」では、常に写真表現の可能性を追求し、あらゆる撮影技法とプリント技術を駆使した芸術性の高いオリジナルプリントをお見せいたします。



流行通信1981年12月 MO:山口小夜子

B1F 地下1階映像展示室
Images & Technology Gallery

入場無料

2005年8月20日(土) → 9月4日(日)

社団法人 日本写真文化協会 The Pride of Japan

○主催：日本写真文化協会 ○協力：東京都写真美術館

全国47都道府県の写真館で組織する文部科学省認可の公益法人 日本写真文化協会の会員たちが、それぞれの郷土で探し求め、見つめ直した美しい日本の風土、人、文化等々を約360点の写真でご紹介します。



お問い合わせ：日本写真文化協会 03-3351-2463

B1F 地下1階映像展示室
Images & Technology Gallery

入場無料

2005年9月10日(土) → 9月25日(日)

第16回JPA展・ 日本写真作家協会展

○主催：日本写真作家協会 ○協力：東京都写真美術館

今年で16回目となるJPA展は、日本写真作家協会の会員による260点の作品が展覧されます。また、第3回目となる公募展には全国から2,667点の応募が集まりました。その中から入賞・入選作品約100点を展示いたします。

お問い合わせ：日本写真作家協会 03-3535-6251
HP: www.jpaphot.com/

ZOOM UP!
写美

開館10周年特別企画展「写真はものを見方をどのように変えてきたか」
関連書籍も好評発売中です。

www.syabi.com

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY

現在開催中の開館10周年企画「写真はものを見方をどのように変えてきたか」展が、新潮社とんぼの本シリーズより『写真の歴史入門』となって好評発売中です。本書では10周年企画と同じく写真の誕生から現代にいたるまでを4部作で構成。当館学芸員が監修・執筆者としてたずさわって、写真の歴史をやさしく解説しています。当館の収蔵作品も100点以上紹介されており、これから写真の歴史を勉強する学生から写真愛好家、専門家にいたるまで、幅広い層の読者に親しまれています。第1部「誕生」と第2部「創造」に続き、第3部「再生」が7月25日に、第4部「混沌」は9月16日に発売予定。当館のミュージアムショップ及び全国有名書店でお買い求めいただけます。東京都写真美術館が世界に誇る珠玉の名品をお楽しみください。

東京都写真美術館監修
『写真の歴史入門』

第1部「誕生」(著者:三井 圭司)
第2部「創造」(著者:藤村 里美)
第3部「再生」(著者:鈴木 佳子 7月25日発売予定)
第4部「混沌」(著者:中村 浩美 9月16日発売予定)

展覧会総合企画・編集協力：金子隆一 編集・撮影協力：関次和子
新潮社刊 いずれも1,470円(税込)



第4部「混沌」
9月16日
発売予定

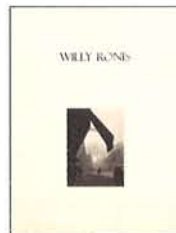


本書に携わった当館学芸員たち
(撮影：関次和子)

1F ミュージアムショップ『ナディッフ バイテン』

NADIFF X10
www.syabi.com/shop/shop.html

お問い合わせ:
「ナディッフ バイテン」
直通 03-3280-3279



Book

フランス写真フェア

ブラッサイ展に合わせて、フランス写真フェアを開催いたします。ブラッサイの他、ドアン、ブレッソン、プロニスなどフランスを舞台に活躍した作家の写真集やポストカードを豊富にとりそろえております。

1+2F カフェ『シャンブル クレール〜明るい部屋〜』

chambre claire
www.syabi.com/cafe/cafe_01.html

お問い合わせ:カフェ
「シャンブル クレール」
直通 03-5798-2218



¥1,100(税込)

Beer

お勧めビールのご紹介

旧約聖書の中に登場する伝説の巨人「ゴリアス」。その名をもつこのベルギービールは、荒々しさと繊細さを併せもつ味わい深さが大きな特徴。ベルギービール史にその足跡を残す名ビールの誕生です。

1F

1階ホール

Hall Cinema information

- 友の会
割引
 - 三越カード
割引
 - アトレカード
割引
- 東京都写真美術館で観る映画シリーズ

HP 詳細ホームページ: <http://www.syabi.com/schedule/schedule.html>

写真美術館で観る映画シリーズ Vol.18

アジアを舞台に紡がれる"3つの出会い"の物語

コトバより大切なもの

about love

アバウト・ラブ/ 關於愛 (クワン ユー アイ)



- ▶ 上映スケジュール: 9月17日(土)~
- ▶ 休館日: 月曜日(休日の場合は翌日)
- ▶ 上映時間: 10:15/12:25/14:35/16:45/18:55
- ▶ 料金: 一般 1,800円/学生 1,500円/中学生以下・シニア 1,000円

東京・台北・上海という、アジアの3つの大都市を舞台に、留学生と現地に暮らす異性との出会いとすれ違う想いを3つの物語で構成した普遍的な"ひとつ"のラブストーリー。異なる文化、異なる言語を持つ男女が、相手に何かを伝えようとする中で生まれる繋がり。都会の息遣いと人と人とのふれあいの中、芽生え、そして交差する想い……。

出演は、東京編に伊東美咲と台湾の人気スター、チェン・ボーリン、台北編には若手演技派俳優の加瀬亮と台湾の歌姫、メイビス・ファン。そして上海編では人気沸騰中の塚本高史と中国の実力派リー・シャオルー。日中を代表する実力派俳優らと、それぞれの地域出身の気鋭ある監督の手によって、国境も言語も越えた3つの"愛について=about love"のリアルな物語です。

詳細ホームページ <http://www.aboutlove-movie.com/>
 ◎お問い合わせ: ムービーアイ エンターテイメント(株) / 03-5537-0151

2005チェコ映画祭

8月30日(火)~
9月9日(金)



チェコ映画から選ばれたアカデミー賞受賞作品など優秀作品を25本一挙上映。本邦未公開作品も多数ありますので、お楽しみに。

- ▶ 上映スケジュール: 8月30日(火) - 9月9日(金)
- ▶ 休館日: 月曜日(休日の場合は翌日)
- ▶ 上映時間: お問い合わせください
- ▶ 料金: 一般 1,800円/学生 1,500円/中学生以下・シニア 1,000円

詳細ホームページ <http://www.czfilmfest.jp>

◎お問い合わせ: チェコ映画祭実行委員会 / [redacted]

東京アニメアワード2005
第4回フィルムフェスティバル

8月26日(金)~
8月28日(日)



アニメーション・オブ・ザ・イヤーに輝いた「ハウルの動く城」なども上映いたします。お楽しみに!

- ▶ 上映スケジュール: 8月26日(金) - 8月28日(日)
- ▶ 休館日: 月曜日(休日の場合は翌日)
- ▶ 上映時間: 7月中旬に決定予定
- ▶ 料金: 入場無料

詳細ホームページ <http://www.taf.metro.tokyo.jp/>

◎お問い合わせ: 東京国際アニメフェア事務局 / 03-5320-4786

維 持 会 員 Membership

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に維持会員としてご入会いただきました。

※詳しくはHPをご覧ください。 <http://www.syabi.com/membership/membership.html>

- 特別維持会員
キヤノン株式会社
株式会社資生堂
東京電力株式会社
凸版印刷株式会社
株式会社リコー
- 維持会員
株式会社アサツーディ・ケイ
旭化成株式会社
朝日新聞社
朝日生命保険相互会社
アサヒビール株式会社
朝日放送株式会社
アップルコンピュータ株式会社
アデコ株式会社
株式会社イトーヨーカ堂
エスエス製薬株式会社
株式会社NHKエンタープライズ
NTTコミュニケーションズ株式会社
株式会社NTTコム
NTT都市開発株式会社
エルメスジャパン株式会社
株式会社大塚商会
株式会社大林組
奥村印刷株式会社
オムロン株式会社
オリンパス株式会社
株式会社オンワード樺山
科研製薬株式会社
カシオ計算機株式会社
鹿島建設株式会社
株式会社角川書店
カトーレック株式会社
カルピス株式会社
キッコーマン株式会社
キヤノン販売株式会社
共同印刷株式会社
社団法人共同通信社
協和発酵工業株式会社
- キリンビール株式会社
株式会社講談社
株式会社光文社
株式会社コーセー
コダック株式会社
コニカミノルタホールディングス株式会社
株式会社コングレ
株式会社ザ・アール
サッポロホールディングス株式会社
佐藤製薬株式会社
三共株式会社
産経新聞社
サントリー株式会社
株式会社ジェイアール東日本企画
ジェイティビー印刷株式会社
株式会社実業之日本社
清水建設株式会社
株式会社写真弘社
シャネル株式会社
株式会社集英社
株式会社主婦と生活社
昭和社写真印刷株式会社
株式会社小学館
松竹株式会社
信越化学工業株式会社
株式会社新潮社
株式会社スタッフサービス・ホールディングス
セイコー株式会社
セントラル警備保障株式会社
全日本空輸株式会社
ソニー株式会社
第一建築サービス株式会社
大成建設株式会社
大日本印刷株式会社
株式会社竹中工務店
株式会社タムロン
株式会社丹青社
中外製薬株式会社
- 株式会社テー・オー・ダブリュー
株式会社テレビ朝日
株式会社テレビ東京
電源開発株式会社
株式会社電通
東亜建設工業株式会社
東海旅客鉄道株式会社
東京ガス株式会社
東京急行電鉄株式会社
東京工芸大学
東京新聞・中日新聞社
東京総合写真専門学校
東京テアトル株式会社
株式会社東京ドーム
株式会社東京放送
株式会社東芝
東宝株式会社
株式会社東北新社
株式会社徳間書店
図書印刷株式会社
戸田建設株式会社
トヨタ自動車株式会社
株式会社ニコン
日外アソシエーツ株式会社
日産自動車株式会社
日本オラル株式会社
日本経済新聞社
日本興亜損害保険株式会社
社団法人日本広告写真家協会
社団法人日本写真家協会
日本写真芸術専門学校
日本写真作家協会
社団法人日本写真文化協会
日本信販株式会社
日本大学芸術学部
日本たばこ産業株式会社
日本テレビ放送網株式会社
日本ハム株式会社
日本ヒューレット・パッカード株式会社 (平成17年6月現在・五十音順)
- 日本ビルサービス株式会社
日本放送協会
日本油脂株式会社
株式会社博報堂
株式会社バンダイ
びあ株式会社
東日本旅客鉄道株式会社
株式会社ファーストリテイリング
株式会社ファンケル
富国生命保険相互会社
富士重工業株式会社(スバル)
富士ゼロックス株式会社
株式会社フジテレビジョン
株式会社ブリヂストン
株式会社プリンスホテル
株式会社プレミアムマン
株式会社文藝春秋
株式会社ベネッセコーポレーション
ペンタックス株式会社
株式会社ホルオークラ
株式会社堀内カウ
本田技研工業株式会社
毎日新聞社
株式会社マジックハウス
松下電器産業株式会社
丸善株式会社
三井倉庫株式会社
森ビル株式会社
モルガン・スタンレー証券会社
モンブラン ジャパン株式会社
ヤマトロジスティクス株式会社
ユニリーバ・ジャパン株式会社
横河電機株式会社
読売新聞社
ライオン株式会社
株式会社ワコール

友の会 Supporter

東京都写真美術館では、随時新規会員の募集をしています。展覧会のご招待・割引、上映映画の割引、写真美術館ニュースeyesの送付をはじめ、たくさんの特典をご用意している他、関連施設での割引もございます。開館時間中(10:00~18:00)に当館1階チケットカウンター横「友の会カウンター」にてご入会いただけます。皆さまのご入会を心よりお待ちしております。

年会費	
個人会員	2,000円
家族会員同伴者1名まで	3,000円
シルバー会員(65歳以上の方)	1,000円

- 受付は当館1階チケットカウンター横の「友の会カウンター」のみとなっております。
- 会員証の有効期限は、翌年の同月末日までです。
- ※詳細は当美術館までお問い合わせください。
TEL.03-3280-0099

友の会特典	特典内容
収蔵展・映像展	無料 ※会期中はいつでもご覧いただけます ※家族会員の方は、同伴者1名まで無料
共催展・企画展	割引 ※御利用いただけない場合もございます
ミュージアムショップ	5%引き ※一部商品は除きます
カフェ	ブレンドコーヒー、ダーズリン紅茶を200円引き ※詳細はお尋ねください
その他	○写真NEWS「eyes」送付 ○1階ホール(実験劇場)の割引 ○ナディア本店(表参道)で輸入商品1,000円以上のお買上につき5%割引(除外品あり) ○ロコス渋谷店で1,000円以上のお買上につき5%割引(洋書・洋雑誌)など